

アンジェロニア セレニータ™・シリーズ

学名: *Angelonia angustifolia*

種子粒数の目安: 約1,000粒(ペレット種子)/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、新しく衛生的なピート主体の培地を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0 の範囲、また初期の EC は中庸 (0.75mmhos/cm(1:2))とする

播種

288 穴のプラグトレイを標準として用いる。覆土あるいは種子を深く埋めないように注意する

ステージ 1 - 発芽には4,5 日を要する

地温: 22 から 24°C

光条件: 発芽には 100 ルクス(10 f.c.)程度の光が必要。暗いと種子は発芽しないので注意する

水分: ステージ1では、最適な発芽環境を整えるため水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する。ただし過湿や飽和状態にしない

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 95%で維持

ステージ 2

地温: 20 から 23°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 水分レベルを中位(level 3)に少し下げながら、根が培地の中にしっかと行き渡るようにする

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 18 から 21°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: ステージ 2 よりもさらにドライな状態とし、次の水やりまでに培地の表面がライトブラウンになるような、level 2(やや乾燥)の条件で管理する。湿潤と乾燥、つまり level 4 から 2 を循環的に繰り返すようにする。苗は一度枯らせてしまうと回復が困難なので、乾かし過ぎないように注意する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。EC は 0.7 から 1.2mmhos/cm(1:2)を維持

矮化剤: プラグ育苗の段階では矮化剤は概ね不要

ステージ 4

地温: 18 から 19°Cとする

光条件: 温度条件が適当であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい培地を使用。培地の pH は 5.45 から 6.2、初期の EC 値は中庸

温度

昼間温度: 18 から 24°C

夜間温度: 18 から 19°C

※ 平均温度が 18°Cを下回ると生育が著しく鈍化するので、温度管理には注意が必要

光条件(照度)

温度が適正な条件の範囲内であればできるだけ高くする

かん水

極端な過湿、また乾燥はともに避ける

肥料

週に一度の頻度でレート 3(175 から 225ppm(N)以下、EC が 1.2 から 1.5mmhos/cm)で、リン酸の値が低カリウムの高い、硝酸態の肥料を与える。培地の EC は 1.5 から 2.0mS/cm、pH は 5.8 から 6.2 を維持する

PGR(矮化剤)

セレニータは、セレナなどの品種に比べてよりコンパクトであり、また丈も遺伝的に短いので、矮化剤をより必要としないシリーズである。とくに上記の適正な温度域にあり、夜温がしっかり下がる条件であれば矮化剤は不要である。もし必要な場合は、B ナインを 2,500ppm とサイコセルを 500 から 750ppm によるタンクミックスによる処理が有効である。サイコセルの濃度は、環境条件による調整が可能である。原則として、温度が低く短日の条件では低めの濃度で使用、逆に高温、長日条件下では高い濃度で用いる。矮化剤は移植後 2 週から散布が可能であり、必要に応じて繰り返し処理する

温度の高い条件では、ボンザイのかん注も有効である。やはり移植後 2 週をめどに、上記タンクミックスの代わりに 3 から 5ppm の濃度で与える

ピンチ(摘芯)

ピンチはしない。種子系のアンジェロニアは自然に優れた分枝性をもっているため、ピンチをしてしまうと開花の遅れや草姿を悪化させてしまうので注意する

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 から 6 週

288 穴トレイの苗の移植から出荷(開花)まで:

コンテナ サイズ	株本数 /ポット	移植から出荷 まで(週数)	播種から出荷 まで(週数)
カットパック、 9cm	1	8-9	13-15
10.5cm	1	9-10	13-15
15cm	3	9-10	14-16
15 から 18cm	3	9-10	14-16

※ 育苗を 128 穴トレイで行った場合は、出荷までの期間を 1,2 週間短縮することが可能

病例等

害虫: 現在とくに大きな問題は報告されていない

病気: 現在とくに大きな問題は報告されていない

その他アドバイスなど

- 日あたりのよい場所に定植する
- 草丈は通常 20 から 25cm で、温度の高い土地では最長で 40cm 前後にまで育つ
- 株幅は通常 30 から 35cm で、温度の高い土地では最大で 40cm 前後にまで育つ
- 定植時の株間は 20cm が標準

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。